



無知&褐色&巨乳ちゃん
を騙して生SEX

基本CG13枚
総CG60枚以上

すえごろう/妄想特急



自分探しのため、という建前で
可愛い子とワンチャン狙い、南の
島にやってきた俺。

島を散策していると、
ここでラッキー出会いがあった。



「あ……あなた、ダレですか？」

「ぼ……僕はいろんな国の文化を知りたくて日本から来ました。タケルです。よろしくお願いします。」

「えっ！ニホンから来たんですね！」

「ニホンで食べ物がおいしくて人がみんなやさしい国ですよネ！」


「は、はい、そうです。」

（ほっ、よかった……なんか日本人の評判は良いようだ……）」

「よかったらあなたの名前も聞かせてもらってもいいですか？」

「あっ！ゴメンネ！」

「ニホン人で聞いて元気になるっちゃって！」



「あたしはターニャ、
ようこそタケルさん。」
「この島を楽しんでくださいネ♡」



(う、うおお…)

よく見るとすごく可愛いうえに
なんてエロい体なんだ…！
オッパイも超デカイ…！)

「よ…よろしくお願いします！」

「!!」

気が付くと俺は両手でターニヤの
その大きな胸を…



ビクッ

むにゅっ♡



もみ
もみ
もみ

もみ

もみ

もみ

正面から鷲掴みにしていた。

(し……しまったああああ)

「あ……あの……これは？」

「こ、これは……！」

「そう！これは日本の挨拶のひとつ
であります！」

もみもみ もみもみ

「そ、そうなんですか……」

「あたしニホンに興味アルけど
まだ全然わからないから」

「そ、そうなんだ……！」

「しっかり揉むと、相手に敬意を
払ってるってことなんだ！」

「そうなんですな……」



ん

もみ

むにゅ

もみ

むにゅ

もみ



もみ

びび

もみ
もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ



(なんか揉んでるうちに上着を剥いで
しまった……！)

しかしこのおっぱい、とにかく
最高だ！いつまでも揉んでしまおう！)

「すごく、長く挨拶するんですね……
ちよっと、困る……」

(も、もう我慢できない……！)
「失礼します！」

「っ……!!」



ぱん

むやっ...
...

にゅにゅ





あー

あ

あ

ちゅ

くっ
くっ

キゅ
♡

あ



ん
あゝ

ん

れろ
れろ

びゅ

びゅ

あゝ
ああ...

びゅ



は...

んっ
あっ...

ちゅ
ぽ

ちゅ
ぽ

どろ

とろ



(ん？太ももに何か流れてないか？

ま、まさかターーヤもその気にな

なっちゃってるとか……！

ここまでやって今更気にするのも

変ではあるが……)

「はあ……はあ……

あ……あの……」

「ご……ご……ご……を……ご……すれば、

もっと親密の証になるよ!!」

(もう止められない!!)

「ひあっ!!」



やっ...
...

び
び

び
び

く
く

び
び

び
び

と
と



あぁ


ビク

ビク



ポッ

ポッ



(すごい…膣内がヌルヌルで
トロトロだ…抵抗しないって
ことはもうオツケーってこと
なのか?それともまだこれが
日本流の挨拶だってこと信じてる
のか??)

(そうこうしてるうちにターニヤを
全裸にしてしまった)

「あっ…ああっ…ん」

全裸にされたあと、ターニヤは
しばらく恥部をまさぐられた。




ヒッ

ヒッ

ヒッ

クチャ

ぐっ



「あ……あたしもう立って……られ……
体も……なんか熱くて……
よくわからなくなる……」

「そ、それは大変だ！
熱を冷ます方法なら知ってます！
お薬を入れることです！」

「はあ……はあ……お薬……？ですか？」

「はい！効果的なものが！」

「あたし、ニホンのお薬、効くって
聞いたことあるような気がする」

するとタケルはターニヤの背後に
立った。

「それではいきますよ」

「？ お薬は？どどど？」

「で、では挿入しますよ、
ここから」

「え……?え?
そこから入れるの?」

ぐっ

ぴとっ

「はい、動かないで……
力を抜いて……」

「あのっ……
ちよっと、待っ」



ああっ!!

(なにこれっ...苦し...っ)
(やべっ...これ...っ!...)

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ





(やだあつ…
舌…絡まって…
もう…わかんない…こ)

んっ

ほ

ぴん

んっ
✓

もみ

もみ





あ

あ

あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ

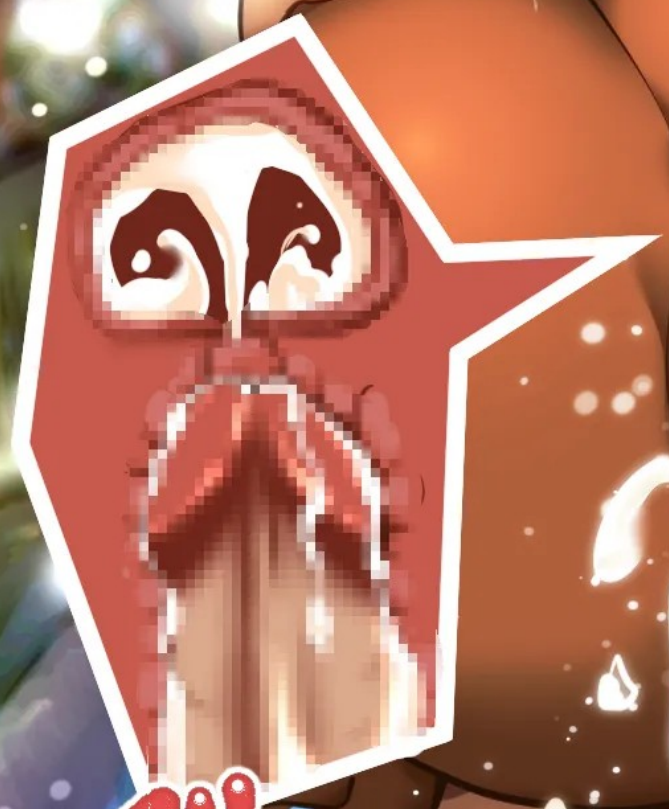


ああああ

びび

びび

(あっ……やべっ……
膣内に出しちゃまったっ……)



びび

びび

びび

(やりすぎたか……?)

「……これ本当に……
お薬?なの?」

(まだわかってない
のか……)
「も、もうすぐだから」

ハア

ハア

ト
ロ
……

ム
ム

ヒ
ク





あ
あっ

ビ
ン

ビ
ン

ブルブル

ブル



ド
ッ

ビ
ン
ブル
ッ





(最後までやってしまった
なんとかごまかすしかない)

ぐったりしていたターニヤだったが
ゆっくりと話し始めた。

「二、二ホンの挨拶は…
とても、情熱的なのですね」

「そ、そうなんですよ…!!
では僕はこれで…」

「この島では、男が女にお薬を
入れられたら、

**父親に会わせる
決まりがあります。」**

「えっ?」

その後、タケルの姿をみたものは
この島で以外にいない…

終わり





























































